

佐見地区 まちづくり懇談会会議録

1. 開催日時：令和6年11月8日（金）午後7時30分から午後9時08分まで
2. 開催会場：佐見ふれあいセンター 大研修室
3. 出席者 46名
 - (1) 地元参加者 31名
 - (2) 町執行部等 15名

町長 佐伯 正貴	副町長 安江 章	教育長 鈴木 雅史
総務課長 藤井 充宏	庁舎整備室長 竹腰 耕太郎	企画課長 渡口 彰規
町民課長 長尾 茂気	保健福祉課長 長尾 ひろみ	農林課長 長尾 弘巳
建設環境課長 中村 豊	議会事務局長 安江 宏行	教育課長 大岩 裕樹
学校再編専門監 玉置 雅野	学校教育係長 鈴木 幸祐	記録係 田口 葉
4. 会議資料 別紙のとおり
5. 会議録
 - ・教育課長 会議を開催する旨を述べた。
 - ・町長 開会にあたり挨拶をした。
 - ・教育長 白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について説明した。
 - ・大建設 施設一体型小・中学校について説明した。
 - ・教育課長 質疑を許した。
 - ・女性A 新校舎の3D映像を見て、広い空間で子供たちが楽しそうだった。教室の扉の上に隙間があるが、空調等はどのようになっているのか。
 - ・大建設 教室は基本的にラーニングストリートとオープンな関係であるが、テスト等の状況に応じて締め切ることができるようになっている。全館空調となっており、教室ごとの空調ではない。適度に空気が回るような設計にしている。
 - ・男性A 佐見小は一貫校に含まれずに残すという話だが、仮に一貫校になった場合は今までのように複式学級のままなのか、学年ごとのクラスになるのか。また、佐見小はいつまで残す予定でいるのか。
 - ・教育長 佐見小は統合しない方針である。令和8年、11年は現状のままだと入学児童が0人となるので、11年には2学級になる可能性が高い。1人でも児童がいれば現在の3学級を維持することができる。仮に統合した場合は複式学級ではなくなるが、河岐まで通うことになる。
いつまで佐見小を残すのか、地域や保護者との話し合いによるので、いつまでとは言えない。もし2学級となる場合は校長、養護教諭を含め4人の教員だけでやっていくことになりかねない。
 - ・総務課長 自主防災活動補助金、防災アドバイザー派遣事業について説明した。
 - ・庁舎整備室長 新庁舎建設工事の進捗状況について説明した。
 - ・企画課長 公共交通対策、空き家管理について説明した。
 - ・農林課長 次年度からの農業振興策について説明した。
 - ・教育課長 質疑を許した。

- ・男性B 新校舎について、完成したあかつきには、他の地域から白川町に通わせたくないような考えはあるか。
- ・教育長 新校舎のみならず、教育の中身もより良く変えていく方針である。町外の方が白川町に通わせたいと思うような教育環境を宣伝していきたい。
- ・町長 移住したくても住むところがないという問題もある。移住者は一軒家で農地がついている家を希望する方が多い。黒川地区でも実例があるが、全国的に増えている学校に行くことが難しい子を田舎で育てるPRもしていきたい。また、住むには収入が必要である。町内の仕事も併せて紹介しながらPRしていきたい。そして、白川町は広く、地区によっては遠距離通学になることに抵抗がある方もいると思う。
- ・女性A 空き家について、空き家を所持しているが仏壇があるから他人に貸せない家が多いという話をきく。どういう条件なら貸せる、といった条件や現状を把握するためのアンケートをとってみてはどうか。そこから新しいアイデアが生まれるかもしれない。
また、そのアンケート結果を町民にも共有してもらえると、民間でできるアイデアなども出るかもしれない。
- ・企画課長 サポートセンターでも交渉しているが、他人に貸すことに抵抗がある方が多い。アンケートについては検討させていただく。
- ・男性C 佐見へ訪れたある方が、佐見のいいところをあげていた。その中に佐見川キャンプ場もあげられており、川遊びができることが魅力のひとつだという。その佐見川キャンプ場経営を民間に任せることは検討できないか。行政管理を、やりたい気持ちがある移住者などに任せてみるのはどうか。それを地域ぐるみで応援したい。
- ・男性D 高校を卒業するとすべての若者が出て行ってしまう。外でしか学ぶことができないことも多く、気持ちはわかる。そのまま町外での生活が定着すると戻ってこなくなってしまう。どうしたらいいか。若者を引き付ける、住みやすい街にするには、魅力を作らないといけないと思う。また、生活のための収入が必要であり、それも構築しないといけない。若い子供たち、中学生にブレインストーミングをしてもらうのはどうか。様々な意見をどんどん出してもらうことで、そこからより良いアイデアやヒントが出てくるのではないか。
- ・教育長 今学校でできることとして、いくつかは既にやっているものもある。資料の一貫教育の項目にもあるように、中学校は小学校の体験を土台として探求力、課題解決力を身につけるカリキュラム（総合的な学習）を実施している。ふるさとの魅力や課題を発見する内容で、発表会を予定している。中学校までに学習したことで「ふるさと」を心にきざみ、将来的に白川町に帰ってきてもらうことが理想であると考えている。
- ・副町長 体験村の管理について、体験村を含めた町の施設について、専門的な知識がある方に経営を任せる方法も検討していきたい。
- ・保健福祉課長 暮らしに役立つ勉強会について説明した。

- ・教育課長 質疑を許した。
- ・男性D 小中一貫校の卒業式は9年目の一回のみか。
- ・教育長 9年一貫の義務教育学校ではそうなる。一貫校の定義があいまいで、教育の内容を一貫するだけのものも含む。義務教育学校では6：3や4：3：2など区切りをつけることもあるが、卒業証書を受け取れるのは9年の最後のみとなる。
- ・女性B 保護者の中から声があがれば、というが、保育園などへの聞き取りを積極的にやってもらえると声があげやすい。
- ・教育長 2学級の複式学級について再度説明した。この件について保護者がどう考えるか。小学校を統合すべきか残すべきか、保育園の保護者の間でも両方の意見がある。どういう方向へいくのが子供にとっていいのか、時間をかけて皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・教育課長 閉会の旨を述べた。
- ・副町長 閉会にあたり挨拶をした。